

9月1日は防災の日



災害への備えはできていますか

地震などの災害は忘れた頃に突然やってきます。災害から身を守るためには、日頃から身の回りの備えを十分にしておくことが大切です。この機会に身の回りの備えについて見直してみませんか。

災害に備えるチェックポイント

- 災害時の連絡方法や避難場所・経路などを家族で確認しておきましょう。
- 家の内外をチェックして危険箇所があれば修理・補強をしましょう。
- 家具の安全な配置を考え、転倒防止策をとりましょう。
- 食料品や飲料水を3日分(可能であれば1週間分)を目安に備蓄し、避難する際に持ち出すものをまとめておきましょう。

災害時要配慮者への支援を

地域の中には、高齢者や障がいのある人など、災害時に一人で避難できない人もいます。避難の際には自分や家族の身の安全を確保したうえで、可能な範囲での支援にご協力をお願いします。

災害時の緊急情報を電話やファクスでお伝えします

携帯電話をお持ちでない人や障がいのある人への情報伝達手段として、これまでの「大分市防災メール」に加え、固定電話などに音声やファクスでお伝えするサービスを開始します。携帯電話をお持ちでない人、障がいのある人、携帯電話の操作が苦手な高齢者(原則70歳以上)が対象で、登録費用、通話料は無料です。防災危機管理課または各支所に備え付けの登録用紙に必要事項を記入し、防災危機管理課または各支所へ(電話での登録受付は行っていません)。

配信する情報

- 市が発令する避難情報(避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示〈緊急〉)
- 気象特別警報
- 津波警報、大津波警報



☎ 防災危機管理課 ☎537-5664

9月9日は救急の日



大切な人の命を救うのはあなたです

救急の日、救急医療および救急業務に対する理解と認識を深めるために制定された日です。大切な人の命を救うために、通報のポイントを確認し、いざという時に慌てないようにしましょう。

緊急通報時のポイント

- 119番通報すると、指令員が救急車の出動に必要なことを質問します。慌てず、ゆっくりと答えてください。
- 救急車が来るまでに倒れた人の健康保険証や診察券、普段飲んでる薬(お薬手帳)をできる範囲で準備してください。
- 救急車が来たら、倒れた人の情報(持病・かかりつけの病院など)、救急車が到着するまでの様子や変化、行った応急手当などを伝えてください。

※子どもは自分の状態を伝えることが難しい場合があります。いつもと異なる様子はないか、周りの人が注意してください。また、高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので、迷ったらかかりつけ医に相談しましょう。

こんなときには迷わず119番を

顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- ろれつが回りにくく、うまく話せない
- 見える範囲が狭くなる
- 顔色が明らかに悪い

頭

- 突然の激しい頭痛・高熱
- 支えなしで立てないぐらい急にふらつく

手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2~3分続く

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く
- 便に血が混ざる、または真っ黒い便が出る



☎ 消防局警防課 ☎532-2199

行政改革推進プラン2018の進捗状況をお知らせします

将来を見据えた健全な行財政運営の推進を目指し、2018年度からの5年間を計画期間とする「大分市行政改革推進プラン2018」を策定し、積極的に取り組んでいます。2018年度実績と数値目標の達成状況についてお知らせします。

行政改革推進プラン2018数値目標

2018年度~2022年度の5年間の改善目標額は75億円(2017年度決算と比較した場合の5年間累積)です。事務事業の整理・合理化や自主財源等の確保の促進、職員配置と給与水準の適正化などの取り組みを進める中で、2018年度の改善効果額は約17億円になり、全体計画における達成率は23%でした。

行政改革の主な取り組み(2018年度)

- マイナンバーカードを利用した住民票の写し、印鑑登録証明書、戸籍証明(全部・個人事項証明書)のコンビニ交付を運用開始しました。



- それぞれの地域で策定されたビジョンを市民の皆さんと共有し、将来像の実現に向けて一緒にまちづくりに取り組むことを目的に、市内13地域で「地域まちづくりビジョン市民報告会」を開催しました。



- 橋梁・トンネル等の適正な維持管理を計画的に行い、安全性や信頼性の確保とコストの削減を図りました。

- ふるさと納税制度の返礼品の種類を40品目増やし、寄附金の使い道を例示することで寄附者の理解を深めるとともに、市政PRを図りました。2018年度の寄附額は1億4,968万2,500円(前年比19.9%増)、寄附件数は10,226件(前年比30.2%増)でした。また、市営駄原総合運動公園内の3施設やJ:COM ホルトホール大分などへ導入したネーミングライツ制度の活用により、2,186万9,000円の収入を得るなど、自主財源の確保を図りました。



- 「職員の働き方改革に関するプログラム」を策定し、業務の生産性を向上させるための職場環境づくりなどに取り組みました。

2019年度の取り組みの一例

- 水防法の改正に伴い改訂される洪水ハザードマップや、新たなガイドラインを踏まえた「わが家の防災マニュアル(風水害編)」を作成し、9月から順次、市内全世帯と全事業所に配布します。
- 行政事務に、認知技術を活用した業務の効率化・自動化の取り組みを行うRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を導入することで、業務改善や市民サービスの向上を図ります。



- 大分川ダム周辺の材料山跡地で、多目的に利用できる広場や屋外ステージなどを整備し、野津原地区での新たな魅力の創出による地域活性化につなげます。



☎ 行政改革推進室 ☎537-5718